

ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '84 7月号

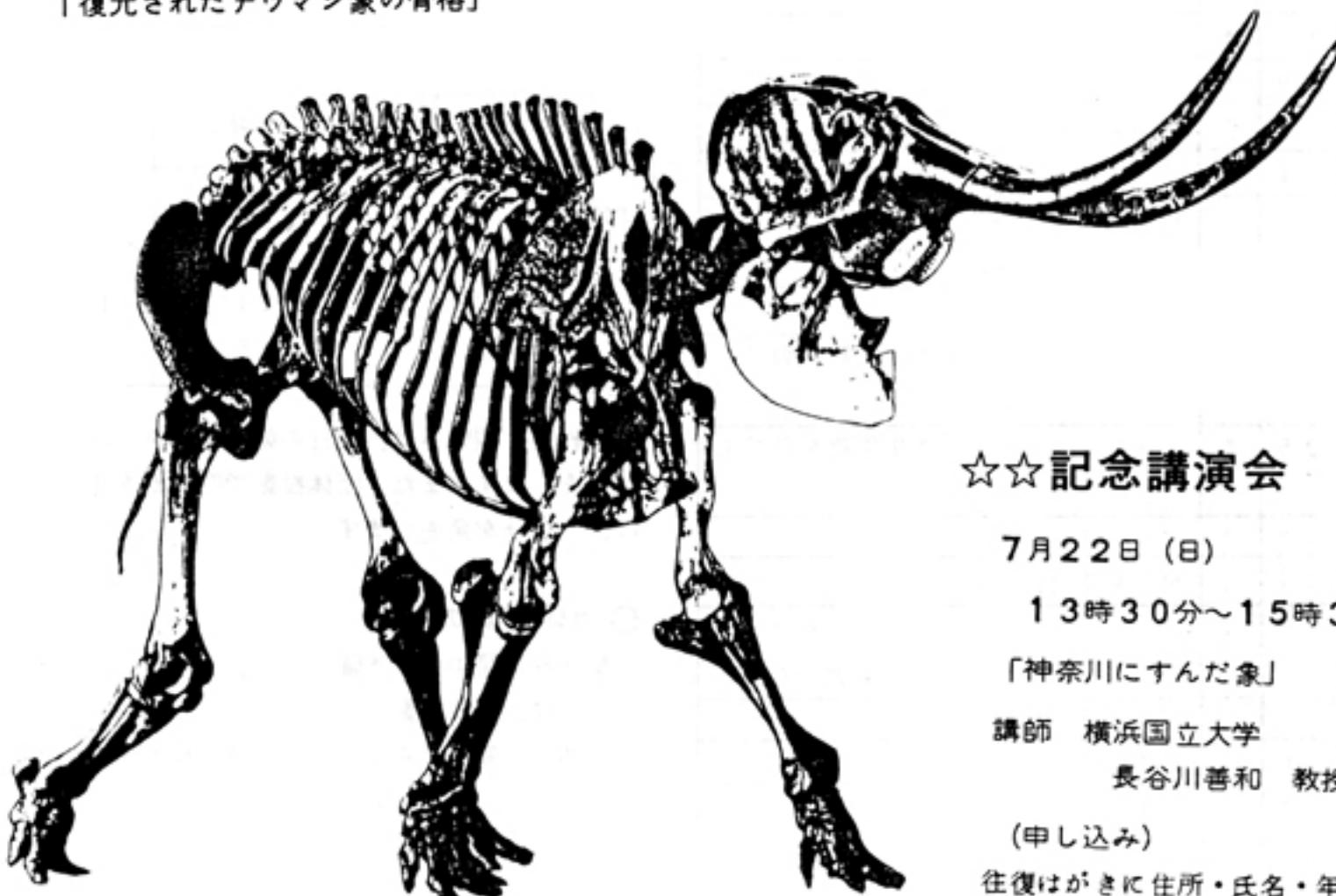
夏期特別展

『神奈川の化石－よみがえったナウマン象－』

会期 7月20日～8月30日

会場 平塚市博物館 特別展示室

「復元されたナウマン象の骨格」



☆☆記念講演会

7月22日(日)

13時30分～15時30分

「神奈川にすんだ象」

講師 横浜国立大学

長谷川善和 教授

(申し込み)

往復はがきに住所・氏名・年令等を
明記し、7月15日までに博物館へ。

この図は、横須賀市自然博物館提供の写真をコピーしたものです。

7月の行事

1	日	プラネタリウム
2	月	(休館日)
3	火	「緑の国勢調査」
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	プラネタリウム、古文書講読会
8	日	プラネタリウム、自然観察会
9	月	(休館日)
10	火	
11	水	
12	木	デッサン教室
13	金	デッサン教室
14	土	プラネタリウム、土曜観察会、石仏を調べる会
15	日	プラネタリウム
16	月	(休館日)
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	特別展「神奈川の化石」
21	土	プラネタリウム、古文書講読会
22	日	特別展記念講演会 プラネタリウム、
23	月	(休館日)
24	火	自然観察入門講座「水生生物を調べよう」、水彩教室
25	水	プラネタリウム、「水生生物を調べよう」
26	木	プラネタリウム
27	金	星を見る会、自由研究相談会
28	土	プラネタリウム、「水生生物を調べよう」、土曜観察会、石仏を調べる会
29	日	プラネタリウム
30	月	(休館日)
31	火	(休館日)

夏休みのプラネタリウム

7月21日(土)から8月30日(木)までの夏休み期間中は、プラネタリウム本体と数十台のプロジェクターを総動員し、「水中都市」と題した投影を行います。

「水中都市」あらすじ

「私は、おさかなだよ。」

町を泳いでいた小さな一匹のお魚が、ある日星座を見て、地球を離れる決意をしました。そこで見たのは……

大気中の二酸化炭素濃度の増加という現象が、気象庁の「異常気象レポート'84」でもとり上げられました。その現象が際限なく続いた場合を想定し、その時に起きることを宇宙と人間の立場から眺めるサイエンス・フィクションです。

○投影開始時刻

	水曜日	木曜日	土曜日	日曜日
団体	11:00	11:00	11:00	
一般	14:00	14:00	14:00	11:00

一般向け観覧券は、当日の朝9時より一階受付で発売します。また、団体投影で空席がある場合は、空席分を発売します。

○団体観覧の予約

夏休み期間中の、水曜、木曜、土曜の午前11時の回は、団体投影用です。

団体で観覧をご希望の方は、博物館管理係へ電話でご予約下さい。20人以上で団体扱いとなります。料金は3割引となり、1人70円です。

★☆行事案内☆★

●自然観察入門講座

「貝化石を調べよう」

貝化石を観察・採集し、博物館でまとめて行う。

日時 8月14(火)、15(水)、17日(金)の3日間 9時~16時

場所 大巣町虫窓、西小巣、博物館

対象 小学校4年生以上

定員 30名(多数の場合抽選)

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・年令を明記の上、7月31日までに博物館へ。3日間とも参加できる方に限ります。

「水生生物を調べよう」

水生昆虫、淡水貝などの調査法を実習し、水の汚れとの関連を調べる。

日時 7月24(火)、25(水)、28日(土)の3日間、9時~16時

場所 花水川、秦野市春岳沢、博物館

定員 30名(多数の場合抽選)

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・年令を明記の上、7月10日までに博物館へ。3日間とも参加できる方に限ります。

●寄贈品コーナーのご案内

テーマ 高瀬コレクション「引札」

期間 6月16日~7月29日

商品の広告、開店案内、大売出しのさいに書いて(刷り込んで)配るチラシ、ビラを引札(ひきふだ)といいます。もともと江戸期の木版摺のものをいましたが、明治中期頃から、石版・凸版など印刷されたものも出廻りました。

「恵比須 大黒

鯉の舞い」 ▶▶▶▶

とてもきれいなんです。

カラーでなくて ごめんなさい。

●体験学習「麦から細工」

麦からを使って、ホタルカゴ(虫かご)をつくってみます。

日時 8月10日(金) 10時~15時

場所 博物館科学教室

定員 40名(多数の場合抽選)

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・年令等を明記の上、7月31日(必着)までに博物館へ。

●自由研究相談会

夏休みの自由研究について、考古・歴史・民俗・美術・生物・地質・天文の各分野の学芸員が、資料やまとめ方などの相談に応じます。

日時 7月27日(金)、8月24日(金)

10時~15時

場所 博物館科学教室

参加自由

●星を見る会

博物館の望遠鏡で、いろいろな天体を観察しましょう。

「惑星を見よう」

7月27日(金) 18時~20時

「月と惑星を見よう」

8月 3日(金) 18時~20時

「夏の星座と惑星」

8月28日(火) 18時~20時

場所 博物館科学教室

参加自由



平塚の年中行事

ア 真田の天王さん

今月は前回に少し触れた市内真田の天王さんの祭りを紹介しましょう。この祭りは今では平塚の七夕祭りと重なり、訪れる人が少なくなってしましましたが、かつては田植え後の野上りの時期で、近郷近在から多くの人たちが参拝に出かけ、この地方の代表的な夏祭りの一つとなっていました。

真田というのは平塚市の北西端にあるムラで、天王さんは現在は真田神社と呼ばれ、真田の鎮守として祀られています。江戸時代末に編さんされた『新編相模國風土記稿』によれば、「牛頭天王社 鎮守なり、例祭六月七日、社領一石七斗の御朱印は天正十九年十一月賜へり、拝殿、神樂殿建てり 天徳寺持」と記されています。広く使われている「真田の天王さん」といういい方の天王は、ここにある牛頭天王(ごずてんのう)の略称です。

牛頭天王というのは武塔天神とも呼ばれ、インドでは祇園精舎の守護神とされていますが、中国を経て日本に伝えられてからは御靈(ごりょう)信仰と結びつき、行疫神(こうえきしん)として信仰されました。行疫神というのは、この神を祀れば疫病などの災厄をのがれるという神で、牛頭天王を祀る神社としては、京都の祇園八坂神社(もとは祇園感神院といった)や愛知県の津島神社が有名です。両社の祭りはともに夏に行われ、日本の夏祭りは、ほとんどが御靈信仰系の祭りでもあるわけです。

真田の天王さんは、明治初期には京都祇園感神院と同様に「八坂」という社名にかわり、その後現在の社名にかわりました。祭りは『新編相模國風土記稿』、さらに明治3年の明細帳や明治4年の社寺書上では6月7日とされていますが、のちには7月9日となり現在にいたっています。いつから7月9日になったかは、わかりませんが、7月9日というのは旧暦にすれば6月上旬で、祭りの時期はほぼ同じといえます。

この祭りは、初めに記したように近郷近在から多くの参拝者を集めたわけですが、その信仰圏を明治14年の玉垣寄進者でみていくと、現在の平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町、中井町、小田原市、厚木市に及び、東京の浅草や神田の名もあります。この玉垣からすれば、祭りには東東京は別にすれば、神奈川県の中南部の地域の人人が参拝に集まつたと考えられます。他に、たとえば藤沢市の農村部でも田植え終了の目安に天王さんの祭りを伝えていた所があり、実際はもう少し広い範囲に及んでいたようです。

祭りの手順は、7月上旬に祭りの相談が行われ、供物の餅つきや買物がされ、祭りの前日には掃除、幟立て、オカリヤ(安斎所)の設営がされます。そして宵宮(7月8日の晩)には、神前に鯉が供えられ、ミヤダチといって神輿が巡幸し、安斎所に安置されます。お囃しも盛んで、太鼓がたたかれ、9日には、かつては神樂も行われました。近郷近在からの参拝者にもっともよく知られているのは、祭りの時に立つ農具市とホウズキ市です。現在の真田神社から真田与一の廟所のある天徳寺の間に鍬、鎌、桶やホウズキを売る店が並びました。参拝者は「鍬の観音まいり」のようで、金目の堀の内あたりから数珠つなぎだったなどといわれ、この人たちは天王さんに参拝してから、神輿の安斎所、真田与一廟所にも参りました。天王さんに参ったら必ず与一廟所にも参るものだとされ、天王さんの祭りにホウズキが売られるのは、真田与一はゼンソクが持病で、ホウズキの根を煎じて飲んでいたことによるといわれています。真田与一はゼンソクのために討死し、よって与一を信仰するとゼンソクが治ると考えられており、与一も御靈信仰にもとづいた行疫神として信仰されていたわけです。

真田の天王さんの祭りに多くの参拝者があったのは、以上にあげたように牛頭天王社(真田神社)の疫病除け、真田与一のゼンソク除けという利益(りやく)的信仰が、ある時代に爆発的に広まつたためと考えられます。(学芸員 小川直之)